

江津の“今”と“未来”を伝える広報紙



か ば わ ら

GOTSU PUBLIC RELATIONS MAGAZINE
12
2016
VOL.780

GO GOTSU!
山陰の「創造力特区」へ。

ポリテクカレッジ島根の女子学生3人が伝統技法「組子」で形作った模様は、古来から魔除けにも用いられる「麻の葉」。繊細さと大胆さを組み合わせた作品が快挙を遂げました（詳細は最終ページ）

特
集

創造者たち

「Go-Con」江津市ビジネスプランコンテスト——



「江津に引っ越してから草刈り機の使い方を覚えました。大分慣れてきて、近所の人にも『上手になったね』と言われたんですよ」

Go-Con2015 大賞受賞者

えがみ たかし
江上 尚さん Takashi Egami

—ゲストハウス「アサリハウス」を10月にオープン—

GO▶GOTSU! 山陰の「創造力特区」へ。
江津市は昨年12月、新たなスローガンを掲げました。

「なぜ、創造力？」

「そもそも江津に創造力があるの？」

そんな思いを持つ人もいるかもしれません。

しかし、あるのです。江津には創造力が。

正確には、創造力を持った人が。

近年、創造力を持った人が、江津に集まっています。

きっかけの一つは、6年前に始まった

江津市ビジネスプランコンテストでした。

愛称は「Go-Con」。

創造者の背中を押す存在です。

特集 創造者たち

「Go-Con」江津市ビジネスプランコンテスト——

江津市東部の浅利町、菟沢公園の近くに、一軒のゲストハウスが誕生しました。その名は「アサリハウス」。築80年と130年の古民家を改装しました。「これまでの増改築で使われていた人工的な建材を取り払い、土と木と紙という、素材の魅力を生かすようにしました。縁側のケヤキ板も米ぬかで磨くと、くすみが取れてあめ色になってきたんですよ」。オーナーは江上尚さん。昨年のGo-Conの大賞受賞者です。

仲間とともに江津で

江上さんは愛知県の出身。大学卒業後、東京で社会人生活を送りました。江津との出会いは3年前。地方での挑戦などを取り上げた雑誌『ソトコト』の特集で、江津のUIターンの活躍が掲載されたのがきっかけでした。何度も江津へ足を運ぶにつれて交流が深まり、次第に「江津で挑戦したい」との思いが強くなったそう。昨年のGo-Conでゲストハウス事業と地域の魅力的な体験活動を提案し、大賞に輝きました。

受賞後、プランの実行に着手した江上さん。支えとなったのは、



玄関を入ると基石と碁盤で「アサリハウス」と表現し、来客者をお出迎え。

それまでの交流で培ってきた江津市内外の人とのつながりでした。

かつての大賞受賞者を通じて浅利の古民家を紹介され、使用することに。改修作業をワークショップ形式で3回にわたり実施したところ、延べ150人もの仲間たちが駆けつけました。「市内だけでなく、東京や大阪、名古屋に福岡から、たくさんの人たちが来てくれました。フェイスブックを通じて、香川県から高校生も参加したんですよ。ご近所の皆さんは郷土料理を作ってくれました」。今年10月、多くの人たちの協力により「アサリハウス」がオープンしました。

「がんばりやう」

現在アサリハウスに居住する江上さん。地元自治会に加入し運動会や例大祭でのみこし担ぎなど地域行事にも積極的に参加

顔が広がりました。

挑戦できるまちで

しています。「東京で働いている時は、自宅の隣人が誰であるかも分かりませんでした。ここでは、さまざまな人が立ち寄って、お茶を飲みながら楽しいお話ができます。草刈りをしていたら『がんばりんさい』と栄養ドリンクの差し入れや『働きすぎはいけんよ』といったわかってくださったり、地域の温かさを肌で感じています」

オープン直前には、都治神楽社中が大広間で舞い、東京からの視察団と近所の皆さんと一緒に石見神楽を楽しみ、囃子とともに笑



土間は共用事務スペースに変身。月単位での利用が可能。

初めて江津に訪れた前週、江上さんはニューヨークでの仕事を終えて13時間かけて東京へ戻りました。翌週、同じ13時間をかけて江津へやって来ました。東京から遠く離れた江津ですが、最近では江上さんのように移住し起業する人も増えていきます。UIターンの目には、どのように映っているのでしょうか。「地域の担い手の減少など、解決すべき社会課題が多くあります。一方で、解決に向けて名乗り出た人が主体的に取り組める環境を創ってくださいます。ここで挑戦しようとする人が増えているのも、そうした環境があるからではないでしょうか」

東京から遠く離れたまちで、江上さんの挑戦が始まりました。

東京から遠いまちには
挑戦できる環境がある

楽しいキャンプ場なら もっと楽しく

菰沢公園の敷地内にある
オートキャンプ場。
この3年間で利用件数が
倍増したことをご存知ですか？
仕掛け人がキャンプ場に関わったのは
Go-Con がきっかけでした。

「コンテストで発表したときに『3年間で利用者数と収入を倍にする』と目標を掲げていました。3年たった今、おかげさまでほぼ達成することができました。芝生や設備がきれいで、池や海にも近くて遊びやすいと好評をいただいているんですよ。菰沢公園の敷地内にあるオートキャンプ場。専門の検索サイトで県内人気2位になるなど、好評価を受けています。仕掛け人であり運営を担うNPO法人WINDSの理事長、和田智之さんは、手応えを感じています。

楽しい場所だから もっと魅力的に

和田さんと菰沢キャンプ場との出会いは5年ほど前。近くで仲間たちと昔遊びなどの活動をしてきたのがきっかけでした。「いい公園があるから行ってみよう」ということになったんです。そうしたら、池のそばでキャンプができて、しかも近くには広い芝生広場などもある。これは楽しいと思いました」

一方、現地で受け付けができないなど、不便に感じる部分も。「自分たちだったら、もっとキャンプ

場の魅力を増すことができるのでは」。そんな思いから、3年前のGo-Conで和田さんは、キャンプ場の活性化を提案し、大賞に輝きました。

2014年4月に、江津市からキャンプ場の運営を受け持った和田さん。最初に取りかかったのは、初心者が利用しやすい環境の整備でした。「アウトドアを楽しむたいけど、自分で道具をそろえるのは大変だと、私自身も思っていました。そこで、テントやバーベキューセットを貸し出すようにしました。インターネットでの予約もできるようにしました」

取り組みの成果は数字として表れました。3年間で利用件数は250件から597件、人数は1290人から2508人と倍増しました。その多くが、初めて菰沢にキャンプに訪れた人たち。山陽地方や四国からの利用者が増加しました。

県外からの人気を得ている菰沢キャンプ場。一方で、さらに利用者数を伸ばすには、地元の人たちがカギになると和田さんは見ます。「すでに週末はたくさんの人たちに利用していただいていた

キャンプ場内に広がる芝生は利用者からも好評。「でも夏場は伸びる草との戦いなんです」と苦笑い。

菰沢公園オートキャンプ場の
利用件数と人数の推移
(2014年からWINDSが運営)

年	件数	人数
2013	250	1290
2014	355	1672
2015	355	1921
2016	597	2508

ます。あとは平日の活用方法。地元の人に利用してもらえれば掛けを考えていきたいです」。もっと地元で愛されるキャンプ場になるために、歩みを進める和田さんです。

Go-Conだからこそ

大賞受賞から半年も経たずにキャンプ場の運営を担った和田さん。短期間で実現したのもGo-Con大賞の肩書が大きかったといえます。「受賞者を盛り立てようと、たくさんの人に助けてもらいました。市が主催するコンテストの受賞者ということ、信頼の担保も大きかったです。何よりも、Go-Conでプランをしっかりと立てたことが、実行につながりました」



Go-Con2013 大賞受賞者

和田 智之さん *Tomoyuki Wada*

— NPO法人WINDS理事長
2014年から菰沢公園オートキャンプ場の運営を担当 —

雑誌『ソトコト』が江津取材
Go-Con 受賞者も写真撮影に参加しました



地方で活動する人のバイブル的存在で、江上さんと江津をつないだ雑誌『ソトコト』が江津取材。12月5日発行の1月号の特集「日本の地方に住んでみる2017」で取り上げられます。地域づくりをしやすい土地として江津が注目されているとのこと。関係者の写真撮影には、江上さんと山口さんも参加しました。

梓さんが社長として対外的な活動を受け持ち、厳雄さんが工場長として従業員1人とともにクラフトビールの醸造を担っています。特徴は150リットルという、醸造所としては非常に小さな単位で生産ができることだといえます。「小規模だからこそ、既製品だけでなく『こんな材料を使ってほしい』という特注品にも細やかに答えられます。先日、川本のエゴマの葉を原料にしたビールの依頼がありました。素材の魅力を生かしながら醸造するのが、腕の見せ所です」と厳雄さん。醸造設備も自ら手がけました。

鳥取県からも特注品の依頼があったほか、毎月2人程度が醸造設備へ見学にも訪れるなど、石見麦酒への注目は県外に広がっています。「思った以上に順調に来ていますが勝負はこれから。2年、5年、10年と継続できる会社にならないと。そのためにも、小回りの良さを生かしていきます」と梓さん。夫婦での挑戦は続きます。



5種類の味はさっぱり系や苦みが効いていたりなど個性豊か

Go-Con 2014
背中を押されました

厳雄さんは広島県、梓さんは神奈川県出身。2人は、厳雄さんの転勤により2008年に浜田市へ。「みそメーカーに勤めてい

小規模が個性であり強み

石見麦酒は会社として運営

今年4月、新たな醸造所が江津市内に誕生しました。その名は「石見麦酒」。石見地方で初めてのクラフトビール（小規模な醸造で作られるビール）を製造します。原料には、桜江の大麦、益田のユズ、津和野のシークワーサーなど石見地方産のものがずらり。文字どおり「メイド・イン・石見」です。

手がけているのは山口厳雄さんと梓さん夫妻。嘉久志町のじばさんセンターの敷地内に、小さな醸造所を設けています。「ユズは華やかな香りを、シークワーサーは苦みを引き出します。石見産の原料が香りや風味を演出しています」と厳雄さんが地元産の魅力方を語れば、梓さんは「事業を進めていく中で、地域の人たちにたくさん応援してもらっています。地方で会社をするならではの魅力を感じています」と笑顔を見せます。

たこともあり、以前から発酵に興味がありました。次第に自らお酒を作ってみようという思いが強くなりました。そんな時、Go-Conに背中を押されました。2人で挑んだGo-Con2014、参加した13組の中から山口さん夫妻は大賞に輝きました。

酒を製造するには、国から酒造免許を取得しなければなりません。大賞受賞の時点で免許を持っていなかった2人にとって、大きな関門でした。

「酒造免許には資金、経営、技術の3要素を満たす必要があります。技術は、発酵の知識が生きる。とともに、東京で研修を受け、腕を磨きました。資金と経営では、Go-Conに挑戦する際に、しっかりと計画を立てたことが生きました。何よりも、受賞者を応援しようという関係者の支えに助けられました」（梓さん）。

2015年12月に酒造免許を取得し、今年4月から3種類（現在は5種類）の商品を瓶やたるで販売し始めました。

2014 Grand Prix



地元産でつくる
オンリーワン

Go-Conの目的は、このまちで新たなことに挑戦する人を発掘し、応援すること。この春、Go-Conをきっかけに、石見でたった一つの事業に取り組みだした夫婦がいます。

Go-Con2014 大賞受賞者

やまぐち あずさ
山口 梓さん Azusa Yamaguchi

やまぐち いつお
山口 厳雄さん Itsumasa Yamaguchi

—クラフトビール「石見麦酒」を4月に開業—

「石見麦酒のロゴが“硯麵”に見えるようで、何人かに『麵をください』と声をかけられました。これは想定外でしたね（笑）」

ファイナリストの発表をこの目で！
来場者の投票で決まる「会場賞」もあります。

Go-Con2016

江津市ビジネスプランコンテスト

最終審査会

【公開プレゼンテーション】

入場
無料

日時 **12月18日** (日)
13時30分～16時30分

場所 **パレットごうつ 2階ホール**

問い合わせ

NPO法人てごねっと石見
TEL (52) 7130
<http://tegonet.net>



2016 Finalist

Go-Con を動画で知る

江津市フェイスブックページでGo-ConのPR動画を公開しています。江上さんら受賞者3人も登場します。



はらだ まさのり
原田 真宜さん

パクチーで稼げる農業を実践、
江津に第3の特産品を

とくだ けいこ ささき かおり
徳田 恵子さん **佐々木 香織**さん

一杯のコーヒーでつなぐ
「まち」と「ひと」

おだぎり としひこ
小田切 俊彦さん

市民共創で創造力を育む
課題解決のためにインフラ作り

Go-Con2016 Final Presentation, on 18th December, at Palette Gotsu.

Go-Con2016 Final Presentation, on 18th December, at Palette Gotsu.

Go-Con2016 Final Presentation, on 18th December, at Palette Gotsu.

Go-Con2016 Final Presentation, on 18th December, at Palette Gotsu.

最終審査会の前には勉強会を開くようになったのは、2012年から。それは、Go-Conが「人を選ぶコンテスト」ではないからです。重視しているのは、これから創業する人が互いに成長すること。創業支援の過程として、コンテストがあるのです。審査会に向けて、市や商工会議所、金融機関、NPO法人など関係者と一緒になって計画を磨き、その結果、大賞受賞者以外からも、創業を実現した人が現れています。今年、最終審査会に臨むのは3組。大賞を争うライバルでありながら、仲間でもあります。互いに創造力を高め、12月18日を迎えます。

互いに成長するコンテスト

「再び10分間の発表。時間が足りるかな？強調する内容を絞っていこう」。1回目から、時間配分や重点的に話す内容を修正しました。

明確にしないと。主催側の関係者から、改善が必要な点が次々と出されました。真剣な顔つきでメモを取る発表者たち。ときには発表者同士でアドバイスを出し合います。

最終審査会まで2カ月を切った10月27日、今年のGo-Conで一次選考を通過した人たちと主催者側の関係者が集まりました。目的は、最終審査会に向けて計画や発表内容を磨くため。本番と同じ10分間、スライド資料を使いながら、発表しました。

発表後は意見交換の時間。「どんなカフェをやりたいかが最も重要になってくるので、もっと詳しく話した方がいい」「なぜこの事業を江津でするのかを、もっと

ライバルであり仲間

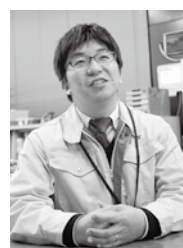
Go-Con2016 ファイナリスト——

12月18日に開催される最終審査会。本番を前に、審査会に進んだ人と主催者が一緒になっての勉強会が開かれています。

ファイナリスト同士はライバルであり仲間。競い合うだけでなく高め合う。ここに「Go-Conらしさ」が詰まっています。

Go-Conのつながりが新たな創造者を生み出します

大賞を逃した人からも創業者が現れていますが、これはGo-Conが創業支援の場として機能していると言えるのではないのでしょうか。また、Go-Conを通じて人と人の新たなつながりも生まれています。今回のファイナリスト3人も、これまでの受賞者や参加者とのつながりなどから挑戦を決意したといえます。Go-Conのつながりが新たな創造者を生み出していると実感しています。



江津市地域振興室
主任
もりわき けんじ
森脇 淳

勉強会では意見交換のほか、コメントシートに書き込んでアドバイスもする。

